



ウメモト インフラオメーション



2020年 9月 23日

担当者: 岩崎

バイオ燃料は、ミドリムシと廃食油のコンビネーションが不可欠

バイオ燃料の原料、ミドリムシは自らの光合成によってCO₂を吸収する。また、廃食油は欠かせない原料として、活用されている。それぞれ、循環型燃料の原料素材としての存在感が光る。

バイオジェット燃料 奈川県横浜市鶴見区内
・ディーゼル燃料の製に存在する。
造実証プラントが、神 AGCの工場敷地内

にあるこの実証プラントは、民間企業ユークレナの先導によって稼働が始まり、現在は年間一・二五ギガワットのバイオ燃料を生産する。

バイオ燃料の生産工程は、乾燥させたミドリムシを原料とする油脂と、使用済みの天ぷら油などの廃食油をタンクの中で混ぜ合わせることで始まる。その比率はミドリムシが一〇%で廃食油は九〇%。

そしてバイオ燃料と石油燃料を二対九の比率で混ぜ、貯蔵して、トラックに注入してから出荷する。

また、反応装置棟内作業では、油から不純物を取り除き、水熱処理を施し、燃料に適した物質に変換させていく。続いて水を加えて、不要な酸素を取り除く。最後は蒸留によって、沸点の異なるジェット燃料やディーゼル燃料、軽油を分別して、個別に取り出す。

バイオ燃料の生産量を増やすために、ユークレナはミドリムシの培養技術を高め、生産拡大のための広い土地を海外に確保する予定だ。バイオ燃料は、環境負荷を低減させるための優れたものだ。

ミドリムシは光合成

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報

★油業報知新聞 9/24記事より



ウメモト インフォメーション



2020 年 9 月 23 日

担当者: 植野

2020年09月23日

東洋インキ、バイオマスタイプなどUV硬化型抗菌ニスシリーズ を拡充 幅広い印刷物への抗菌性付与を実現

東洋インキ(株) (本社・東京都中央区、山岡新太郎社長) は、UV硬化型抗菌ニス「FLASH DRY AMB OPニスシリーズ」「FLASH DRY AMBコートニスシリーズ」でSIAAマークを取得し、さらにバイオマスタイプなど新たなラインナップを追加した。

印刷物への衛生性付与のニーズが高まる中、同社はこのたび再生可能な植物由来原料を用いたバイオマスタイプの「FLASH DRYカルトンBIO抗菌OPニス」「FLASH DRY FL BIO抗菌OPニス」や、デジタル印刷物保護用の「FLASH DRY AMBコートニスPOD」など、新たなUV硬化型抗菌ニスを開発した。
これにより幅広い印刷物に抗菌性を付与することが可能になる。

ツイート

2020年9月23日

日本印刷新聞

引用記事 : 日本経済新聞 ・ 燃料油脂新聞 ・ 化学工業日報

9/23 小坂

元売 異例の製油所運用

コロナ対応ガソリン輸入増

暖房油シフトで改善へ

ガソリン需要最盛期の8月が過ぎて、9月の4連休も終わり、元売の供給体制は暖房用燃料油主体にシフトする。今年には新型コロナウイルス感染拡大の影響で、石油製品の総需要が減少。さらに緊急事態宣言解除後の需要回復局面では、油種によって温度差が生じる異例の事態に陥り、安定供給と収益上のダメージシフトコントロールを両立する、極めて難しい製油所運用が続いている。

新型コロナ下の対応 入で補う措置を取って として多くの製油所 きた。

エット燃料の得率は通常なら2割。これを10%程度に絞り、さらに灯油留分の需要に合わせた製油所自体の稼働を抑制すると、ガソリンが不足する。

資源・エネルギー統

計によると、7月のガソリン輸入量は44万6206吨で前年同月を18万8850吨(73・4%)も上回った。ガソリン輸入が40万吨を越えたのは、東日本大震災に見舞われた2011年の需要期8月(47万9970吨)以来。内外価格差を背景に商社の輸入も活発だが、7月の増加分の多くは元売だったと推測される。

国難とされる新型コロナ下で、石油製品の安定供給に苦心する元売にとって冬場は、灯油留分の需要を押し上げる待望の季節といえる。夏場の国内製油所稼働率は、シエツト燃料油の不振を補う術がなく、7月最終週に57・7%と異例の低水準に落ち込んだ(石連週報)。9月第2週には65・9%に回復した

が、需要期に向けて灯油の引き合いが強まれば、さらに改善する可能性が高い。

ただ今冬の灯油は、流通在庫の積み増しが早期に進んでおり「需要を先食いしている状態」(杉森会長)という。何より冬場に一時的に製油所の稼働率が改善しても、灯油需要期が終わればシエツト燃料油見合いの厳しい運用に戻らざるを得ない。

外務省によると、日本からの渡航者や日本人に対して入国制限措置をとっているのは、15日時点で116カ国・地域。18日にはシンガポールとの間で、出張など短期滞在者の往来再開に踏み切ったが、シエツト燃料油需要の本格回復はまだ見えて来ない。



ウメモト インフオメーション

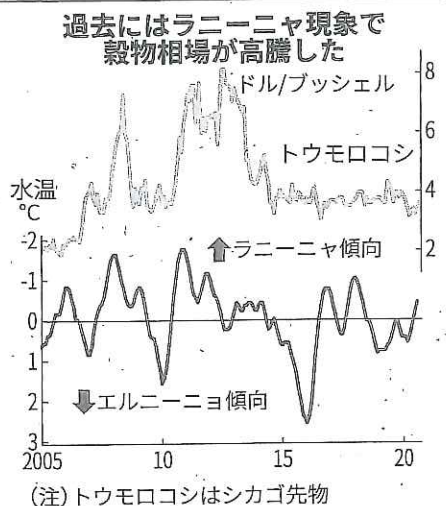


ラニーニャ意識 作物高値

農産品の先物相場が天候不順の原因となる「ラニーニャ現象」のリスクを織り込み始めた。世界各地で発生する豪雨や高温などの異常気象を現象の前兆とみた投機筋が買い注文を入れている。新型コロナウイルスのまん延で市場参加者がリスクに敏感になった面もある。過去には相場が急騰した例がある。

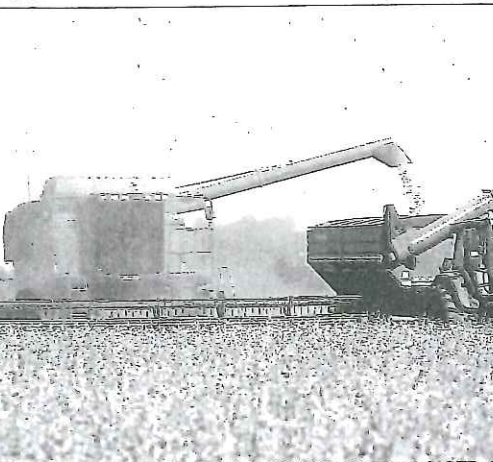
気象庁は今月上旬、「2020年8月にラニーニャが発生したとみられ、冬にかけて継続する可能性が高い」との見方を示した。日本では気象庁が監視する海域の水面温度の5カ月平均値が基準(過去30年の各月平均値)より0.5度以上低い状態が6カ月続いた場合をラニーニャ現象と呼ぶ。

大豆・トウモロコシ産地 異常気象 収量減観測、投機筋が買い



ラニーニャが発生すると、冬にかけて米国で高温傾向、南米も少雨傾向、東南アジアでは多雨傾向

が強まるとされる。今夏の中国や東南アジアでの豪雨や洪水、米国の高温乾燥を「ラニーニャの初期兆候が影響したのではない」との見方が商品市場で出始めた(マーケッツエッジ)。東京・中央の小麦(小管勢代表)の作柄の悪化で需給が引き締まるとの観測から、国際指標であるシカゴ市場のトウモロコシや大豆先物(期近)は8月から



南米の穀物生産に影響懸念も(アルゼンチンの大豆農場)＝ロイター

上昇。トウモロコシは足元で1.5倍、大豆は同10倍前後と2年4カ月ぶりの高値をつけた。10・11年に大規模なラニーニャが発生した際は、米中西部の産地で高温乾燥が強まってイールド(1ヘクタールの収穫量)が減少。シカゴのトウモロコシ価格は11年前半に前年比で2倍、大豆は同1.5倍程度に急騰した

過去がある。ある商社は「ラニーニャも強弱やほかの天候条件などとの相殺があつて、さほど影響しない年もある」と前置きした上で、「小麦主産地のアルゼンチンでは今年は干ばつで作付けが遅れ気味。ラニーニャが強まって一段と乾燥し、作付けや開花が進まなくなれば作柄にも響く」と警戒する。揚げ油やマーガリンなどに使うパーム油の相場には「ラニーニャによる多雨で作柄が悪化する懸念が一部織り込まれ始めている(製油会社)」。指標となるマレーシア市場のパーム油先物(期近)は現在1ト30000

(7万6000円)程度。5月上旬の直近安値の1.5倍で、8カ月ぶりの高値だ。中国などへの輸出増加を背景に、マレーシアの7月末の在庫量は17年6月以来の低水準に減った。需給が引き締まる中で作柄が悪化すれば、相場をさらに押し上げる材料になる。

コーヒー豆でも最大生産国ブラジルへの影響が注目されている。今後生育期を迎え、適度な雨量が必要となるが「降雨量が減ると開花不良を起す」など来年の収穫にまで影響する可能性がある(石光商事の荒川正臣コーヒー飲料部門長)。

市場では「今年はコロナ下で世界的にリスクへの感度が高まっている。ラニーニャが顕在化すれば農作物全般の強材料となり得る(楽天証券経済研究所の吉田哲氏)」との声がかかる。

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報

2020年9月27日
高橋

ウメモトインフオメーション

2020年9月23日

担当者:

高島

化学工業日報

DIC

迪愛生投資有限公司
上海迪愛生貿易有限公司



連嶋伸介 董事長

DICは中国、香港、台湾に20社の拠点を置く。同社もまたコロナ禍の影響を受けた。今年8月下旬までの売上高は前年同期比約1割減だった。今後日本からのサポートがなくては事業を進められないように、新たなビジネスモデルの導入や社員教育の充実を図って

いる。
新たな取り組みとして、SOHO（スモールオフィス・ホームオフィス）を活用するビジネススタイルを展開する。内陸部の顧客のニーズには華南地区の社員が商談に通じているが、重慶に小さなオフィスを構え、普段の仕事を手元でこなし、必要に応じてオフィスに行くといった働き方を想定する。6月にまず社員1人で開始し、これを下ライ

アルに、各地に担当を置いて地域に合った製品を提供することを目指す。また現地社員の育成にも取り組む。従来、中国での事業は日本からのサポートが前提だったが、コロナ禍で日本から同社社員が出張できなくなり、現地社員のスキルやパフォーマンスを上げないと事業を推進する方が落ちてしまう可能性がある。そこで昨年人材育成のツールとして導入した。トレーニングを活用し、社員全体のレベルの底上げを図っている。中華地域には2000人超の社員がおり、地域や会社ごとにレベル差があったため、これまで全員が同じ内容を学べる仕組みがなかった。社員は共通のスキルを身につけ、それ以外にもカリキュラムを選び受講できる。日本からの出張社員がいない中でも現地社員

現地社員の教育充実にか

東京インキ

東京油墨貿易(上海)有限公司



馬場恒次 総経理

が、東京油墨貿易(上海)有限公司の馬場恒次総経理は「来期以降に向けた成長の種まきに努め、事業ポートフォリオの強化を図る」と語る。

納期、きめ細かい顧客対応などを強みに着実に収益を伸ばしている。20年はコロナ禍で顧客の生産が停止した影響から1~3月期は苦戦を強いられたものの、中国経済の復調にあわせて販売も回復してきた。もっとも、主用途の1つである衣料品分野の落ち込みや開発案件の遅れなどもあり、今期は成長の踊り場を迎えた格好だ。

チ(MB)や特殊機能性樹脂、機能性延伸フィルム、土木・農業用資材といたったバランスのとれた事業ポートフォリオを築いてきたが、「足元は成長の前の小休止。来期に向けて開発案件をしっかりと形にしていきたい」と馬場氏。

2002年の連絡事務所開設以降、中国ビジネスを順調に拡大してきた東京インキ。18年度から2期連続で過去最高の売り上げを記録するなど、

2002年の連絡事務所開設以降、中国ビジネスを順調に拡大してきた東京インキ。18年度から2期連続で過去最高の売り上げを記録するなど、

化学成品や加工品事業でニッチ市場の需要を着実に取り込んできた。新型コロナウイルスの世界的拡大で足元は逆風下にある

化成品や加工品事業でニッチ市場の需要を着実に取り込んできた。新型コロナウイルスの世界的拡大で足元は逆風下にある

次代の成長に向け種まき

化学成品や加工品事業でニッチ市場の需要を着実に取り込んできた。新型コロナウイルスの世界的拡大で足元は逆風下にある

化学成品や加工品事業でニッチ市場の需要を着実に取り込んできた。新型コロナウイルスの世界的拡大で足元は逆風下にある

化学成品や加工品事業でニッチ市場の需要を着実に取り込んできた。新型コロナウイルスの世界的拡大で足元は逆風下にある

化学成品や加工品事業でニッチ市場の需要を着実に取り込んできた。新型コロナウイルスの世界的拡大で足元は逆風下にある